

北陸圏広域地方計画の推進について 令和4年度の取組み

概要版

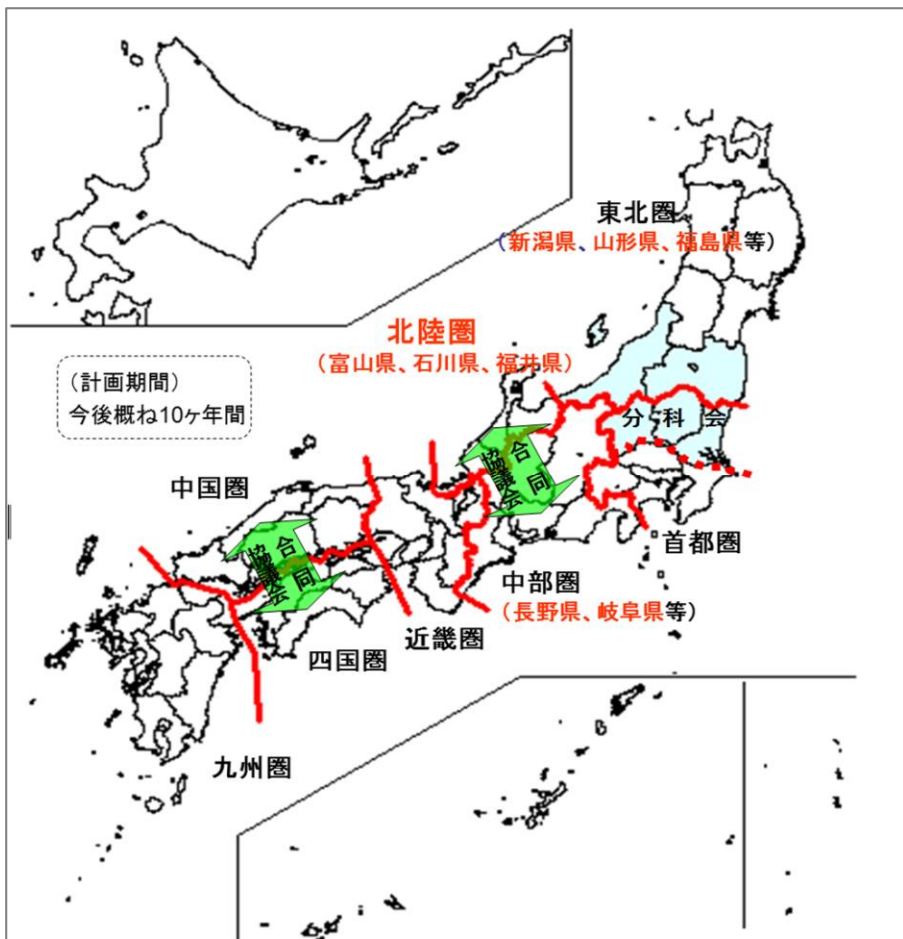
令和8年3月
北陸圏広域地方計画推進室

1. 北陸圏広域地方計画について

北陸圏広域地方計画は、国土形成計画法第9条に基づき、全国レベルの「国土形成計画」を踏まえ各地方ブロックごとに方針・目標・施策を定めるもので、北陸圏の2050年頃までを展望しつつ、今後概ね10ヶ年間の国土形成に係る基本的な計画である。

【北陸圏の位置づけ】

「厳しくも豊かで多様な自然、魅力ある都市と農山漁村及び活力ある産業が共生した、圏域内の連携と国内外との対流・交流により我が国の持続的な発展を先導する、日本海国土軸の中核圏域」として位置づけ



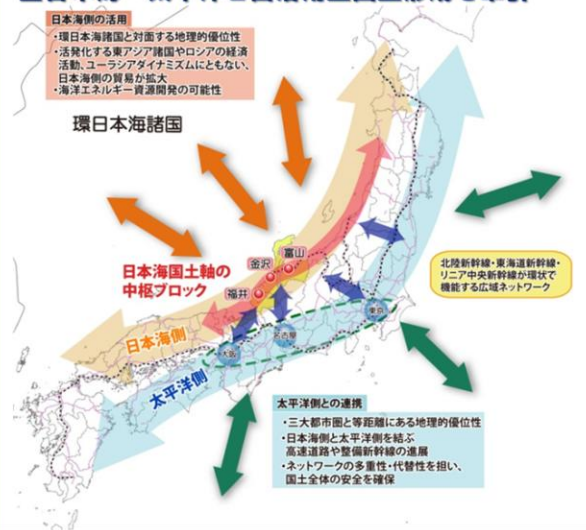
【北陸圏の将来像】

1. 暮らしやすさに磨きをかけ更に輝く 新・北陸
2. 三大都市圏に近接する特性を活かし、日本海・太平洋2面活用型国土形成を牽引する 新・北陸

■北陸における接続型都市形成イメージ

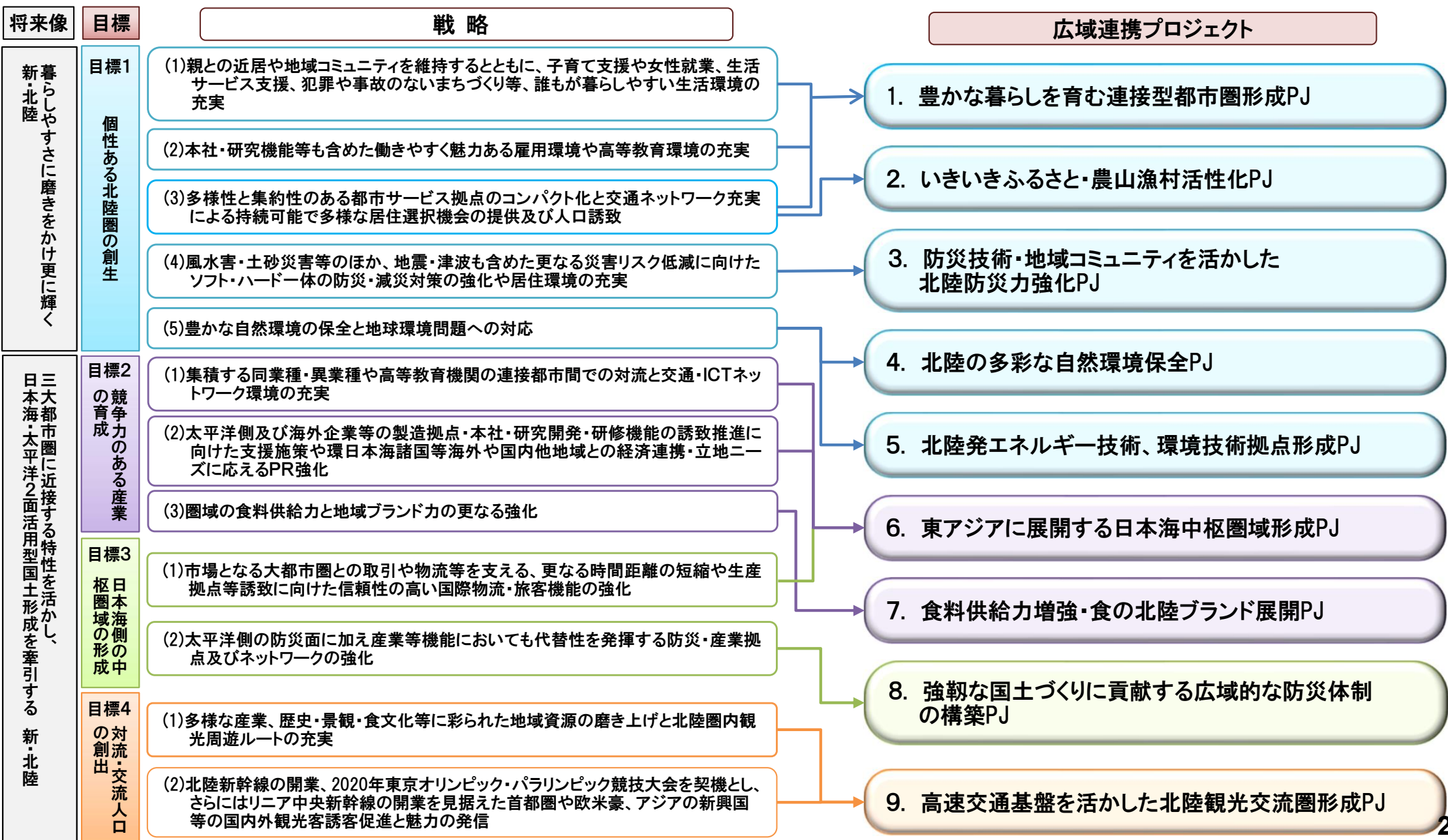


■日本海・太平洋2面活用型国土形成を牽引



1. 北陸圏広域地方計画の体系

北陸圏の将来像を実現するための4つの目標と12の戦略の達成を効率的に推進するとともに、早期かつ相乗的に達成効果を発現、波及させていくため、北陸圏広域地方計画協議会の構成機関等が広域的に連携・協力して以下の9つのプロジェクトに取り組んでいく。



2. 北陸圏広域地方計画 令和4年度の取組み

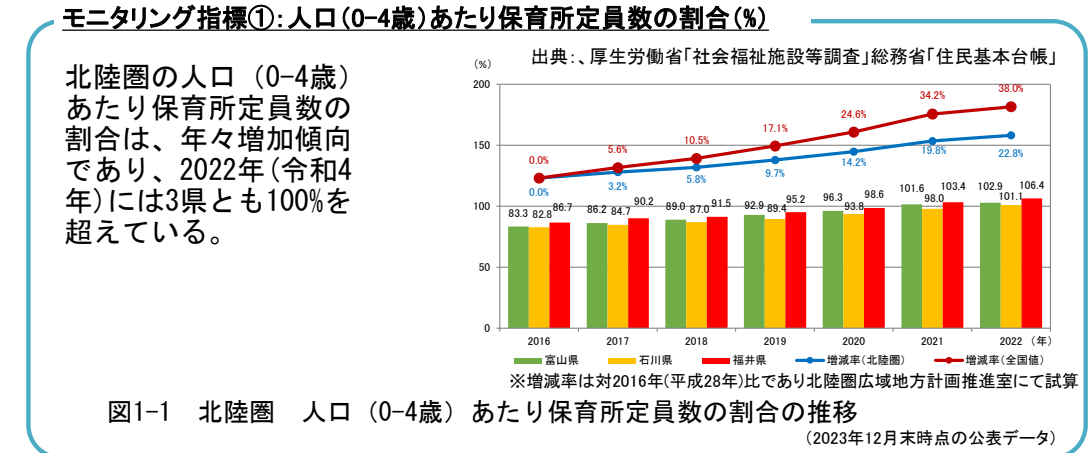
1. 豊かな暮らしを育む接続型都市圏形成PJ(1/4)

美しい自然と豊かな農山漁村に囲まれ、住環境や子育て環境にも恵まれた個性ある都市圏の暮らしの質を高め、北陸新幹線の開業も契機としつつ、近接する都市圏相互の魅力を楽しむことのできる接続型都市圏の形成を推進する。

【計画の具体的取組み項目】

(1) 住環境や子育て環境にも恵まれた个性的でコンパクトな都市圏の形成による暮らしの質の向上

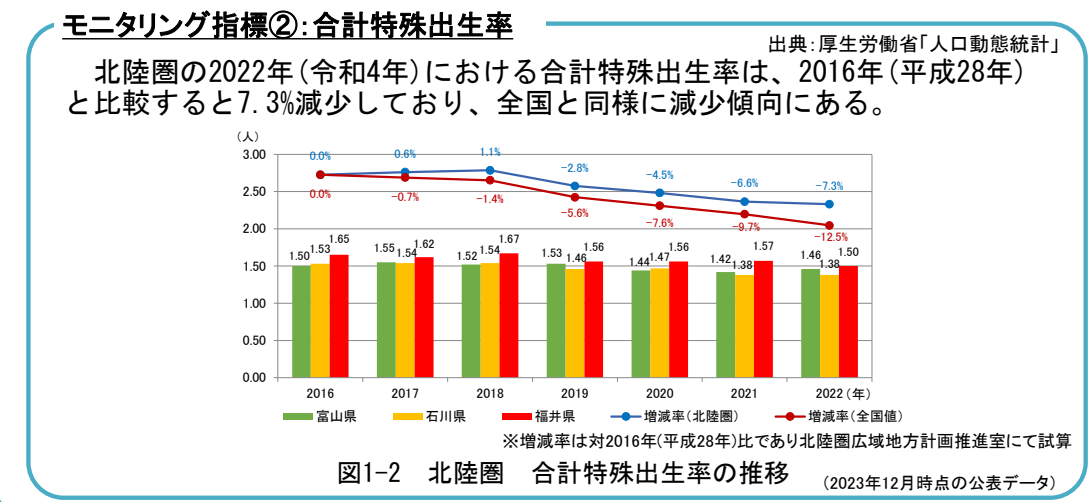
【モニタリング指標】



【令和4年度の主な取組み】

- 【継続的な取組み】**
- ◆2050年の温室効果ガス排出実質ゼロを目指し「ゼロカーボンシティ」の表明及び実現に向けた施策・削減目標等を定める「富山市エネルギービジョン」に基づき事業を推進【富山市】
 - ◆プレミアム・パスポート事業【子育てにやさしい企業推進協議会(石川県)】
 - ・協賛店舗数(R5.3月現在:3,040店舗)←(R4.3月:2,997店舗 [+43店舗])
 - ◆大学コンソーシアム石川の取組み【大学コンソーシアム石川】
 - ◆富山型デイサービス【富山県】
 - ・起業家育成講座(R4年度:受講者43人(512千円))←(R3年度:受講者34人(512千円) [受講者+9人])

取組み事例: 大学コンソーシアム石川の取組み 継続的な取組み
 【大学コンソーシアム石川】



○石川未来プロジェクトの実施
 石川未来プロジェクトは、大学コンソーシアム石川の地域連携事業の一環として、石川県内の学生らがチームを組み、2050年における「石川県の人口100万人。」という未来テーマに対して取り組む問題解決型プロジェクトである。
 1~2週間に1度程度のミーティングや実践活動を行い、活動の成果は年度末に開催される「石川未来会議」にて未来テーマに対する答申を石川県を代表するオーソリティに提言する。

2. 北陸圏広域地方計画 令和4年度の取組み

1. 豊かな暮らしを育む接続型都市圏形成PJ(2/4)

【計画の具体的取組み項目】

(2) 近接する都市圏相互の魅力を享受することのできる接続型都市圏の形成に向けた取組み

【モニタリング指標】

モニタリング指標：年代別人口

北陸3県において、老年人口は全国と同様に年々増加傾向となっている。一方、年少人口は年々減少してきており、少子高齢化社会の進行が顕著となっている。

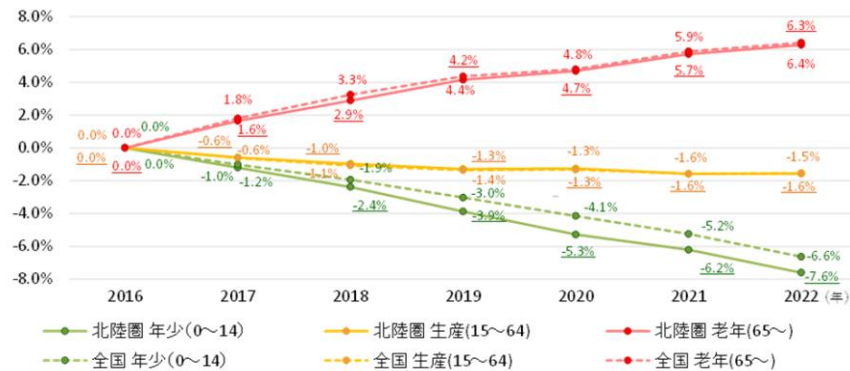


図1-3 北陸圏 世代構成比増減の推移



図1-4 北陸圏 世代構成比の推移

出典：総務省「人口推計」
(2023年12月時点の公表データ)

【令和4年度の主な取組み】

【継続的な取組み】

- ◆ 高規格道路の整備【北陸地方整備局 他】
- ◆ 暮らしよさ日本一の北陸地域ブランドの確立と魅力の発信【北陸イメージアップ推進会議】
 - ・「北陸イメージ調査」を実施し、北陸来訪経験の有無、UIターン前後での北陸への移住・暮らしやすさに関するイメージのギャップを調査
- ◆ 「ふるさと福井移住定住促進機構」の設置【福井県】
 - ・新ふくい人(UIターン者数) (R4年度:1,229人) ← (R3年度:1,018人 [+211人])

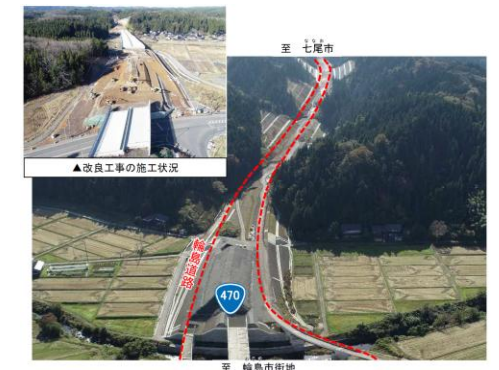
取組み事例：高規格道路の整備【北陸地方整備局】

継続的な取組み

○ 国道41号 大沢野富山南道路事業の推進
大沢野富山南道路は、高規格道路「富山高山連絡道路」の一部として、一般国道41号の交通渋滞の緩和、医療品製造業等の地域の産業を支える物流の信頼性向上を目的とした、富山市榎原から同市栗山に至る延長約12.0kmの道路事業である。
令和4年度は、用地買収、改良工事及び橋梁下部工事を推進することで、事業の着実な進捗を図っている。



○ 国道470号 輪島道路事業の推進
「能越自動車道」輪島道路は、災害時の緊急輸送路と速達性の確保、高速ネットワーク形成による第三次医療施設へのアクセス性の向上を目的とした、輪島市三井町本江から同町洲衛に至る延長約4.7kmの道路事業です。
令和4年度は、本江地区から洲衛地区の改良工事及び舗装工事を推進することで、事業の着実な進捗を図っている。



2. 北陸圏広域地方計画 令和4年度の取組み

1. 豊かな暮らしを育む接続型都市圏形成PJ(3/4)

【計画の具体的取組み項目】

(3) 個性ある都市圏の連携を強化するネットワークの形成に向けた取組み

【令和4年度の主な取組み】

【新たな取組み】

◆人中心の道路空間への再編【近畿地方整備局、敦賀市】

【継続的な取組み】

◆パーク・アンド・ライドの推進【金沢都市圏パーク・アンド・ライドシステム実施協議会】

- ・パーク・アンド・バスライド(R4年度:13箇所)←(R3年度:14箇所[-1箇所])
- ・パーク・アンド・レールライド(R4年度:4箇所)←(R3年度:4箇所[±0])
- ・合計台数(R4年度:301台)←(R3年度:341台[-40台])
- ・利用者数(R4年度:170人)←(R3年度:169人[+1人])

◆主要都市の環状道路やバイパス等の整備

【北陸地方整備局】富山外環状道路(豊田新屋立体、中島本郷立体)、高岡環状道路(六家立体)、金沢外環状道路(金沢東部環状道路、海側幹線(今町~鞍月))等の整備促進

【富山県】高岡環状道路等の整備促進

【石川県】金沢外環状道路(海側幹線(IV期区間))等の整備促進

【福井県】福井港丸岡インター連絡道路等の整備促進

◆おでかけバス・おでかけ電車・おでかけ路面電車事業【富山市】

- ・申込者数(R4年度:21,043人)←(R3年度:21,308人[-265人])
- ・バス延べ利用者数(R4年度:360,530人)←(R3年度:343,876人[+16,654人])
- ・電車延べ利用者数(R4年度:63,388人)←(R3年度:57,022人[+6,366人])
- ・路面電車延べ利用者数(R4年度:264,972人)←(R3年度:244,273人[+23,654人])

◆富山駅付近連続立体交差事業【富山県】

- ・富山地方鉄道本線の運行を仮線に切換

◆北陸新幹線駅前の整備計画【富山市】

- ・駅前広場等の整備

◆福井城址周辺整備事業【福井市】

- ・市道中央1-361号線(道路舗装)72m

◆北陸新幹線福井駅(東口)拡張施設整備事業【福井市】

- ・北陸新幹線福井駅(東口)拡張施設建築工事完成
- ・恐竜モニュメント設置完了
- ・指定管理者決定

取組み事例：人中心の道路空間への再編

【近畿地方整備局、敦賀市】

新たな取組み

○国道8号福井県敦賀市曙町~

白銀町の区間における歩行者利便増進道路(通称:ほこみち)の指定

国土交通省では、道路法の一部を改正する法律(R2年5月27日公布、11月25日施行)により、賑わいのある道路空間創出のための道路の指定制度として、歩行者利便増進道路(通称:ほこみち)制度を創設した。

近畿地方整備局では、管内の直轄国道で初めて国道8号福井県敦賀市曙町~白銀町の区間(L=845m)において、ほこみちを指定した。ほこみちに指定された道路では、賑わい創出、地域活性化に資する、道路の魅力的な活用を推進していく。

ほこみち制度の特徴

- ・道路管理者が指定した場合、歩行者の利便増進を目的として、歩道等の通行区間とは別に、歩行者の滞留・賑わいを創出するための空間を定めることができる。
- ・ベンチ等の施設を誘導するために指定した特例区域では、無余地性の基準を緩和し、占有がより柔軟に認められる。



活用イメージ

- ・道路管理者:近畿地方整備局
- ・路線名:一般国道8号
- ・場所:福井県敦賀市曙町8番5から同市白銀町11番23まで
- ・指定日:令和4年4月1日

出典:国道8号福井県敦賀市曙町~白銀町の区間における歩行者利便増進道路(通称:ほこみち)の指定について(記者発表資料),福井河川国道事務所,敦賀市

2. 北陸圏広域地方計画 令和4年度の取組み

1. 豊かな暮らしを育む接続型都市圏形成PJ(4/4)

【計画の具体的取組み項目】

(4) 公共施設の計画的な管理に向けた取組み

【モニタリング指標】

モニタリング指標：橋梁の点検実施率

2014年度(平成26年度)から2018年度(平成30年度)までに1巡目点検が完了し、2019年度(令和元年度)から2巡目点検に着手している。北陸3県では、国が管理する点検対象の全橋梁数に対して、2022年度(令和4年度)に80.1%の橋梁で点検が実施されている。

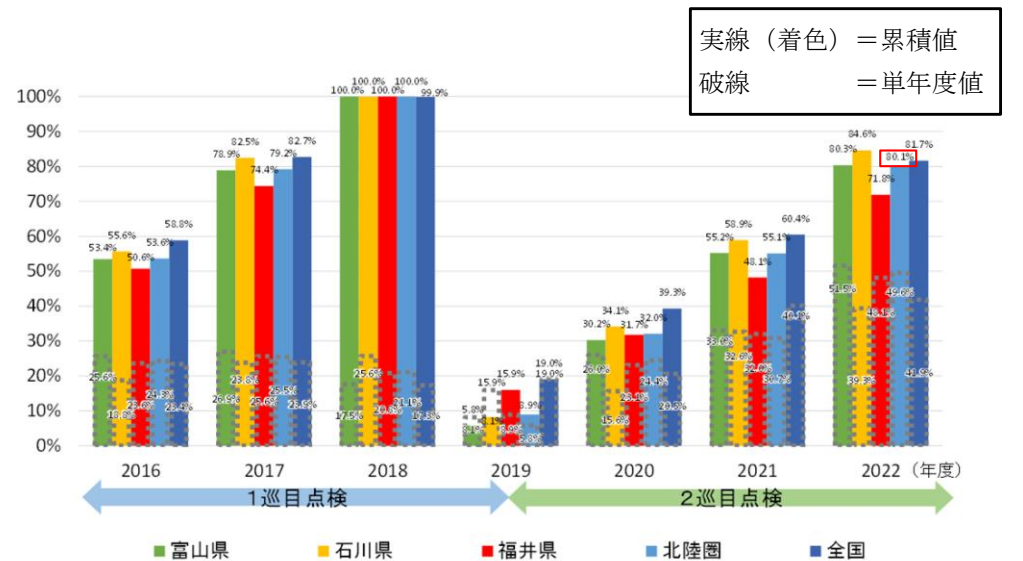


図1-5 北陸圏 橋梁の点検実施率の推移 (国が管理する橋梁)

(2023年12月時点の公表データ)

【令和4年度の主な取組み】

【継続的な取組み】

◆道路の老朽化対策の実施【北陸地方整備局、近畿地方整備局】

- ・富山県道路メンテナンス会議
- ・石川県道路メンテナンス会議
- ・福井県道路メンテナンス会議

◆港湾施設の老朽化対策の実施【北陸地方整備局】

- ・伏木富山港(富山地区)の岸壁改良事業の推進
- ・敦賀港(鞠山北地区)防波堤改良事業の推進

取組み事例：道路の老朽化対策の実施

【北陸地方整備局、近畿地方整備局】

継続的な取組み

○道路メンテナンス会議の開催

道路施設の点検や補修・更新等を効率的・効果的に行うため、各県で全ての道路管理者からなる「道路メンテナンス会議」を設立し、確実にメンテナンスサイクルを回すための各種取組みを実施している。

市町村が抱える『三つの課題』

- ・人不足
 - ・技術力不足
 - ・予算不足
- 点検が進まない
点検結果の妥当性が確認できない
適切な修繕が実施できない

課題解決のために...

道路メンテナンス会議



- ・すべての道路管理者が参加
- ・情報の共有、連携、支援方を検討

○令和4年度道路メンテナンス会議の開催状況

- <富山県>
 - 第1回富山県道路メンテナンス会議 (R4年7月28日)
 - 第2回富山県道路メンテナンス会議 (R5年2月13日)
- <石川県>
 - 第1回石川県道路メンテナンス会議 (R4年8月3日)
- <福井県>
 - 第1回福井県道路メンテナンス会議 (R4年8月3日)

2. 北陸圏広域地方計画 令和4年度の取組み

2. いきいきふるさと・農山漁村活性化PJ (1/2)

農山漁村で安心して暮らせる環境づくりを進めるため、農林漁業が健全に育まれることを基本とし、福祉サービス充実等、集落機能の再生・維持・強化、里地里山や里海の保全と林業の成長産業化、野生鳥獣の被害防止対策の強化による農山漁村の活性化を推進する。また、都市と農山漁村との交流拡大や未利用資源の利活用、農林水産業への新規就業を促進し、農山漁村地域の経済の活性化を図る。

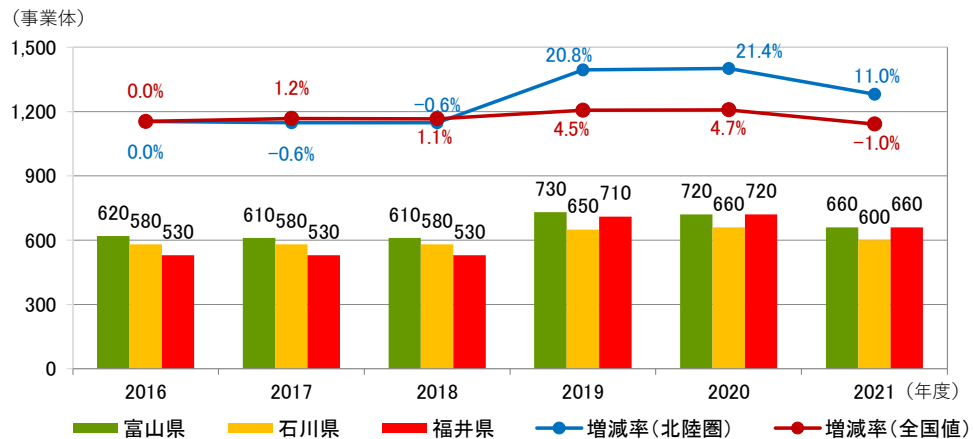
【計画の具体的取組み項目】

(1) 農山漁村の活性化

【モニタリング指標】

モニタリング指標：農業生産関連事業の事業体数

北陸圏の2021年度(令和3年度)における農業生産関連事業の事業体数は、2016年度(平成28年度)と比較すると11.0%増加している一方で、全国値は1.0%減少している。



※増減率は対2016年(平成28年)比であり北陸圏広域地方計画推進室にて試算

出典：農林水産省「6次産業化総合調査」

図2-1 北陸圏 農業生産関連事業の事業体数

(2023年12月時点の公表データ)

【令和4年度の主な取組み】

【継続的な取組み】

◆「道の駅」の取組みの推進【北陸地方整備局】

◆元気な里山里海づくり【石川県】

- ・いしかわり山振興ファンドによる生業の創出等の民間の取組みに対する支援
- ・基金総額：180億円 ・期間：5年間(R4. 4. 1～R9. 3. 31)
- ・取組み対象：地域資源を活用した新商品開発、チャレンジ精神旺盛な生業の担い手支援、里山里海に人を呼び込むスローツーリズムの推進 等
- ・ファンド採択件数(R4年度：40件) ← (R3年度：35件 [+5件])

◆鳥獣被害防止措置法及び関連対策等を通じ、被害防止に向けた取組みへの指導、助言【近畿中国森林管理局】

- ・敦賀市との協定に基づき罾を貸出し、市内国有林において連携して捕獲を実施(ニホンジカ捕獲頭数(R4年度：57頭) ← (R4年度：40頭 [+17頭]))

取組み事例：「道の駅」の取組みの推進【北陸地方整備局】

継続的な取組み

○道の駅「KOKOくろべ」オープン

道の駅KOKOくろべ(オープン日：R4年4月22日)は、市内で最も交通量の多い国道8号に面する交通の利便性に優れた場所において、道路利用者に癒しと快適な休憩の場を提供するとともに、地元生産物等の販売や地元の素材を活かした飲食等の提供を通じて、地産地消の促進と地域ブランドの確立を図り、地域振興に貢献する拠点を目指し整備されている。また、隣接する「黒部市総合公園」の防災機能と連携し、一時避難場所や避難支援活動の拠点としての役割も担っている。



道の駅区域

出典：道の駅「KOKOくろべ」4月22日オープン(記者発表資料)、富山河川国道事務所、黒部市

2. 北陸圏広域地方計画 令和4年度の取組み

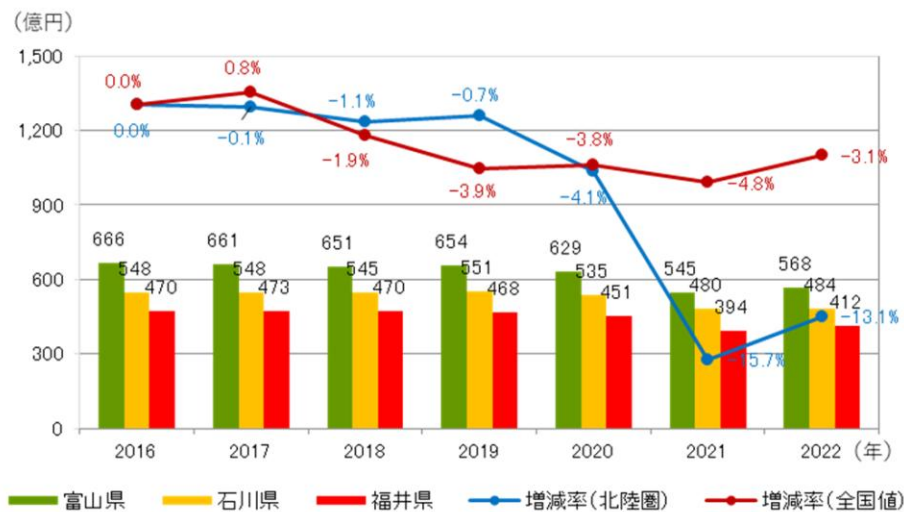
2. いきいきふるさと・農山漁村活性化PJ (2/2)

【計画の具体的取組み項目】

(2) 都市と農山漁村の地域間交流と連携の促進による地域経済の活性化

モニタリング指標：農業産出額

北陸圏の2022年(令和4年)における農業産出額は、2016年(平成28年)と比較して13.1%減少しており、全国値(3.1%減少)よりも減少している割合が高くなっている。



※増減率は対2016年(平成28年)比であり北陸圏広域地方計画推進室にて試算

出典：農林水産省「生産農業所得統計」

図2-2 北陸圏 農業産出額

(2023年12月時点の公表データ)

【令和4年度の主な取組み】

【継続的な取組み】

◆グリーンツーリズムの推進【富山県】

◆LED等を利用した屋内の大規模園芸設備等による企業的園芸を支援(植物工場立地促進事業)【福井県】

- ・植物工場立地促進事業：農業参入を検討している企業の誘致にむけた取組を実施
- ・展示会への出展(R4年度:1回)←(R3年度:1回[±0回])
- ・企業等訪問(R4年度:4件)←(R3年度:0件[+4件])
- ・本事業への応募計画の審査・認定

取組み事例：グリーンツーリズムの推進【富山県】

継続的な取組み

○「とやま帰農塾」の開催

「とやま帰農塾」は、富山県の農山漁村で地元の方と一緒に過ごす田舎暮らし体験プログラムで、植え付けや収穫、草取りなど、その時季の地元特産物の農作業のほか、地元の方と一緒にとれたての農産物で地元の料理を作って食べるなどの体験を実施している。

➢R4年度：県内7市町で開催(9講座、64人参加)

(R3年度：県内4市町で開催(6講座、41人参加)[+3市町、+3講座、+23人])



出典：グリーンツーリズムとやまホームページ とやま帰農塾、NPO法人グリーンツーリズムとやま

2. 北陸圏広域地方計画 令和4年度の取組み

3. 防災技術・地域コミュニティを活かした北陸防災力強化PJ (1/2)

北陸圏が抱える厳しい自然条件や地球温暖化にともなう気候変動、異常気象の増加等の災害要因に対する防災力を強化するため、降積雪・波浪・風水害・土砂災害・日本海沿岸域を震源とする地震・火山への対策に取り組むとともに、災害リスクの評価・共有を行う。また、これまでに培った防災経験や知恵、地域コミュニティを活かした地域防災体制の強化に取り組む。

【計画の具体的取組み項目】

(1) 防災技術の蓄積を活かした災害に強い地域づくり

【令和4年度の主な取組み】

【新たな取組み】

◆災害時の交通マネジメントの実施【近畿地方整備局】

【継続的な取組み】

◆黒部川(直轄河川改修事業)の推進【北陸地方整備局】

◆常願寺川、神通川、庄川、小矢部川(直轄河川改修事業)の推進【北陸地方整備局】

◆手取川(直轄河川改修事業)の推進【北陸地方整備局】

◆九頭竜川改修事業の推進【近畿地方整備局、福井県】

◆流域治水プロジェクトに関する協議会等の開催【北陸地方整備局、近畿地方整備局】

・常願寺川・神通川・庄川及び小矢部川流域治水プロジェクト協議会の開催(R5.3月)

・手取川・梯川水系流域治水協議会の開催(R4.9月、R4.12月、R5.3月)

・九頭竜川流域治水協議会の開催(R4.6月、R5.3月)

・北川流域治水協議会の開催(R4.6月、R5.3月)

◆足羽川ダム建設事業の推進【近畿地方整備局】

◆常願寺川水系直轄砂防事業【北陸地方整備局】

◆手取川水系直轄砂防事業【北陸地方整備局】

◆伏木富山港の耐震強化岸壁の整備【北陸地方整備局】

・伏木富山港(富山地区)において、耐震強化岸壁の整備を推進

◆石川県土砂災害情報システム(SABOアイ)【石川県】

・土砂災害情報システム「SABOアイ」を継続運用(アクセス数(R4年度:140,174件)←(R3年度:139,292件 [+882件]))

取組み事例：災害時の交通マネジメントの実施 【近畿地方整備局】

新たな取組み

R4年8月4日から発生した豪雨災害により、福井県敦賀市～南越前町間では北陸自動車道、国道8号、国道365号等の主要な道路で通行止めが発生した。

各機関において、応急復旧工事を進めていたが、交通開放後において、交通集中による大規模な交通渋滞が発生する恐れがあることから、有識者、行政、高速道路会社及び交通事業者等で構成される「福井県災害時交通マネジメント検討会」を設置し、包括的な交通マネジメントを実施するための議論を実施した。

＜災害時交通マネジメント検討会 結果概要＞

- お盆期間の対策強化
 - 公共交通の利用への呼びかけの強化、・ドライバーに対する広域迂回・混雑時間帯回避の呼びかけ
 - お盆期間中のイベント来訪者に対する呼びかけ、・渋滞情報の収集・発信
 - 片側交互通行規制箇所における通行誘導の柔軟な運用、・渋滞時の利用者への配慮
- 国道8号の片側交互通行規制の解消見込みと対策

【主な取組み例①】SNSを活用した広報



広域迂回の呼びかけ



交通状況マップの公表



休憩施設の混雑状況

【主な取組み例②】渋滞対策



通行規制箇所 交通コントロール



災害時緊急バスの運行



代替路(無料)措置区間への誘導

2. 北陸圏広域地方計画 令和4年度の取組み

3. 防災技術・地域コミュニティを活かした北陸防災力強化PJ (2/2)

【計画の具体的取組み項目】

(2) 地域コミュニティを活かした地域防災体制の強化

【モニタリング指標】

モニタリング指標: 自主防災組織活動カバー率(%)

北陸圏の2022年(令和4年)における自主防災組織活動カバー率は、2016年(平成28年)と比較すると6.1%増加しており、全国値(3.7%増加)よりも増加している割合が高くなっている。

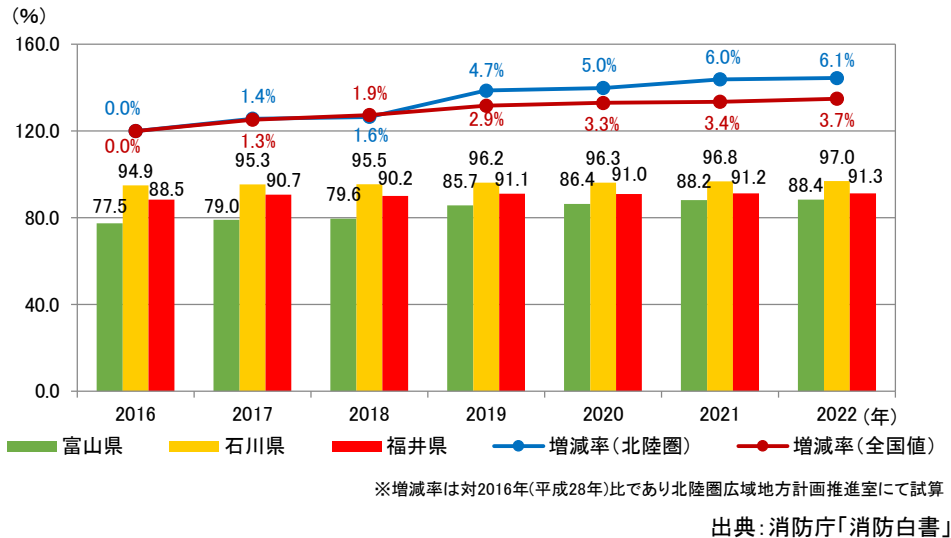


図3-1 北陸圏 自主防災組織活動カバー率の推移
(2023年12月時点の公表データ)

【令和4年度の主な取組み】

【継続的な取組み】

◆自主防災組織の充実等

- 【富山県】
 - ・自主防災組織化研修(R4年度:2地区(11人))←(R3年度:感染症拡大により中止)
 - ・自主防災組織リーダー研修会(R4年度:4地区(132人))←(R3年度:2地区(100人)) [+2地区(+32人)]
 - ・自主防災組織資機材整備事業補助金対象(R4年度:36組織)←(R3年度:29組織 [+7組織])
- 【富山市】
 - ・自主防災組織活動事業補助金(一般資機材)(R4年度:23組織)←(R3年度:23組織 [±0組織])
 - ・地域の防災リーダー研修会(R4年度:36人)←(R3年度:32人 [+4人])

◆福井市避難支援プラン(避難行動要支援者避難支援制度)の推進

【福井市】

- ・個別避難計画作成者数(R4年度:162人)←(R3年度:190人 [-28人])

取組み事例: 自主防災組織の充実等【富山市】

継続的な取組み

○地域の防災リーダー研修会

富山市では、災害発生直後の防災リーダーの役割確認やスキルアップを目的に、地域の防災リーダー研修会を開催している。防災講座を通し、マイ・タイムラインを訓練参加者が自ら作成することで、防災への意識が高まり、防災リーダーとしての心構えを身に付けることができている。

➢R4年度:36人参加(R3年度:32人参加[+4人])

〈開催概要〉

- ・日時: R4年8月30日(火)18:30分~20:00
- ・場所: 婦中ふれあい館
- ・研修内容: 講座「マイ・タイムライン」で
逃げ遅れゼロ



出典: 富山市自主防災だより第11号(R5年4月3日発行), 富山市

2. 北陸圏広域地方計画 令和4年度の取組み

4. 北陸の多彩な自然環境保全PJ (1/2)

北陸圏のシンボルである立山・黒部や白山等の豊かな自然環境や豊富な水を育む水源涵養機能を保全していくため、山岳地域の自然環境の保全や流域圏全体の連携による水系一貫における水循環の維持又は回復、さらには、これら自然環境保全に関する意識啓発を推進する。また、北陸の美しい白砂青松の海岸環境を次世代に継承していくため、砂浜の減少等が進む海岸景観の保全・再生や海辺に親しめる海岸づくり、貴重な湿地、島しょ等が育む渡り鳥等の野生生物の生態系ネットワークの保全を推進する。さらに、昨今、地球温暖化の進行による生態系等への影響が危惧される中で、日本海沿岸地域にあっても顕在化する大型クラゲ、黄砂、酸性雨等の環境問題解決への取組みを強化する。

【計画の具体的取組み項目】

(1) 立山・黒部や白山等山岳地域の自然環境保全

【モニタリング指標】

モニタリング指標: 自然ふれあい行事の開催件数と参加人数(件、人)

白山国立公園では、2021年度(令和3年度)は2件(参加人数:33人)の自然ふれあい行事を開催しており、継続的に自然ふれあい行事を開催している。

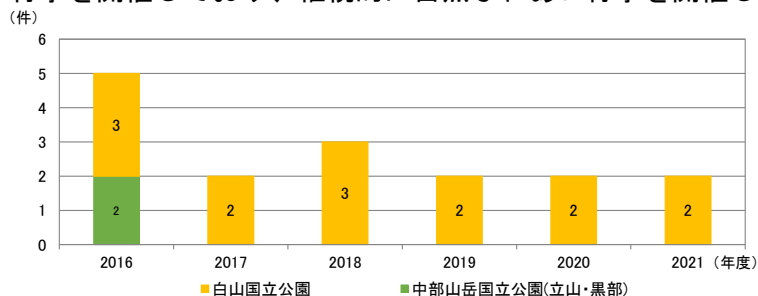


図4-1 北陸圏 自然ふれあい行事の開催件数の推移

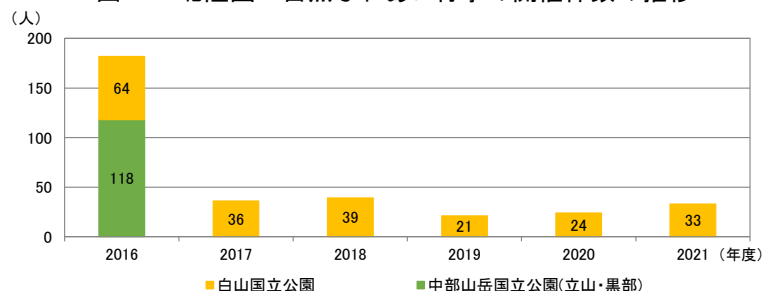


図4-2 北陸圏 自然ふれあい行事の参加人数の推移

出典: 中部地方環境事務所
(2022年12月末時点のデータ)

【令和4年度の主な取組み】

【継続的な取組み】

◆立山・黒部地域の環境保全の取組み【富山県】

- ・「とやまの山岳環境整備ボランティア」を募集し、登山道の安全対策や外来植物除去活動の継続的な実施
- ・立山におけるバスの排出ガス規制の継続的な実施

◆希少野生動植物の保護対策事業の推進【富山県、石川県、岐阜県、長野県、中部森林管理局】

◆いしかわ自然学校の実施【いしかわ自然学校】

- ・いしかわ自然学校プログラム(R4年度:588プログラム、34,389人参加)←(R3年度:575プログラム、21,267人参加 [+13プログラム、+13,122人])

取組み事例: 希少野生動植物の保護対策事業の推進
【中部森林管理局】

継続的な取組み

北アルプスの国有林において、希少な高山植物等の保護や山岳環境の美化を目的としたパトロールを継続して行っている。このパトロールは、昭和47年から毎年夏山繁忙期に行っており、富山森林管理署、地元自治体、山小屋関係者、運輸事業者等で構成する「国有林野保護管理協議会」がパトロール員を公募し、「立山」、「薬師岳・雲ノ平」、「黒部」、「白馬・朝日・北又」の4地区において実施している。

【グリーンロープの整備】



【看板・道標等の補修】



出典: 令和4年度 高山植物等保護パトロール活動報告, 中部森林管理局富山森林管理署

2. 北陸圏広域地方計画 令和4年度の取組み

4. 北陸の多彩な自然環境保全PJ (2/2)

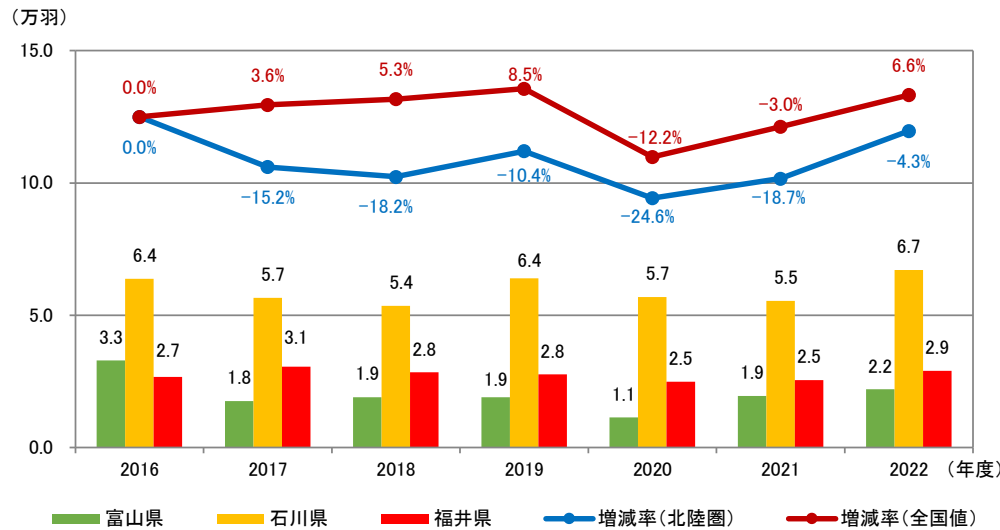
【計画の具体的取組み項目】

(2) 日本海沿岸地域の環境保全

【モニタリング指標】

モニタリング指標:各県別の渡り鳥の飛来数(羽)

北陸圏の2022年度(令和4年度)における渡り鳥の飛来数は、2016年度(平成28年度)と比較すると4.3%減少しているが、2021年度以降は前年度に対して増加傾向にある。



※増減率は対2016年(平成28年)比であり北陸圏広域地方計画推進室にて試算

出典:環境省「ガンカモ類の生息調査」

図4-3 北陸圏 渡り鳥の飛来数の推移 (2023年12月時点の公表データ)

【令和4年度の主な取組み】

【継続的な取組み】

- ◆石川海岸直轄海岸保全施設整備事業【北陸地方整備局】
 - ・石川海岸侵食・越波対策の推進(小松工区・片山津工区)
- ◆クリーン・ビーチ・いしかわ清掃活動【クリーン・ビーチ・いしかわ実行委員会】
- ◆三方五湖の自然再生(三方五湖自然再生協議会)
 - ・自然再生を地域経済の活性化につなげるよう地域資源(景観、食べ物、農漁業体験等)を活用したエコツーリズムの推進を実施
- ◆大型クラゲ対策の強化【福井県】
 - ・大型クラゲ目視調査(R4年度:2回)←(R3年度:2回 [±0回])
 - ・大型クラゲトロール調査(R4年度:2回)←(R3年度:2回 [±0回])

取組み事例:クリーン・ビーチ・いしかわ清掃活動

【クリーン・ビーチ・いしかわ実行委員会】

継続的な取組み

「クリーン・ビーチいしかわ」は、石川県の海岸線583kmをきれいにする海岸愛護運動で、毎年春に行われる海岸清掃「春の統一デー」(県民一斉海岸清掃デー)をはじめ県内各地での海岸清掃と、ラジオ放送を通じた海岸清掃への呼びかけや啓発を主な活動としている。

令和4年度は、「クリーン・ビーチいしかわinはくさん」(開催日:R5年5月28日(土))と「クリーン・ビーチいしかわinかなざわ」(開催日:令和5年5月29日(日))を実施している。

【クリーン・ビーチいしかわinはくさん】

・実施日: R5年5月28日(土) 8:00~10:00

・参加人数: 600人

【クリーン・ビーチいしかわinかなざわ】

・実施日: R5年5月29日(日) 8:00~10:00

・参加人数: 600人



出典:クリーン・ビーチいしかわinはくさん・クリーン・ビーチいしかわinいしかわ,クリーン・ビーチいしかわ実行委員会

2. 北陸圏広域地方計画 令和4年度の取組み

5. 北陸発エネルギー技術、環境技術拠点形成PJ

北陸圏における原子力及びエネルギー分野の最先端技術の集積を活かして、他分野との連携や産学官連携等によるがん治療、次世代エネルギー、新品種開発等に活用される最先端エネルギー分野の新技术開発と新事業の創出に取り組む。また、先駆的なモデルとなる環境にやさしい暮らしの普及・定着を推進するとともに、エネルギー技術と環境技術の集積拠点を形成する。

【計画の具体的取組み項目】

最先端エネルギー分野の新技术開発と新事業の創出

モニタリング指標①: エネルギー起源CO2排出量

(人口1人当たりエネルギー起源CO2排出量)

北陸圏の2021年度(令和3年度)における人口1人あたりエネルギー起源CO2排出量は、2016年(平成28年度)と比較すると18.6%減少しており、全国値(13.3%減少)よりも減少している割合が高くなっている。

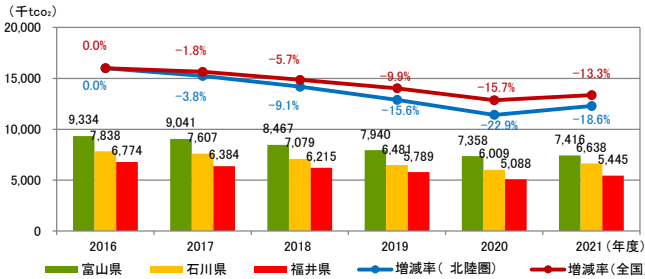


図5-1 北陸圏 エネルギー起源CO2排出量(人口1人当たりエネルギー起源CO2排出量)の推移

出典: 資源エネルギー庁「都道府県別エネルギー消費統計」(2021年度は暫定値)

※増減率は対2016年(平成28年)比であり北陸圏広域地方計画推進室にて試算(2023年12月時点の公表データ)

モニタリング指標②: 再生可能エネルギー設備認定状況

北陸圏の2022年度(令和4年度)における再生可能エネルギー設備認定状況(導入容量)は、2016年度(平成28年度)と比較すると74.4%増加している。2022年度(令和4年度)の北陸3県の中で最も導入容量が多いのは石川県(807.9MW)である。

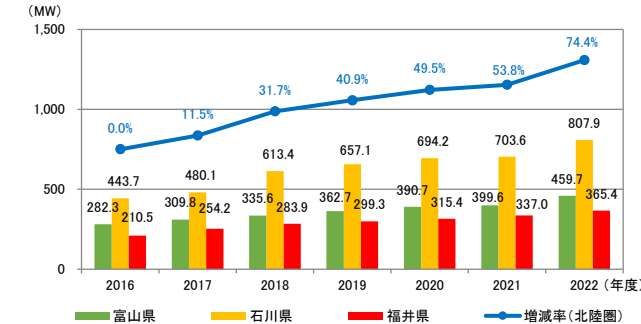


図5-2 北陸圏 再生可能エネルギー設備認定状況(導入容量)の推移

出典: 資源エネルギー庁「都道府県別再生可能エネルギー設備認定状況」(「新規認定分」と「移行認定分」の合計値)

※増減率は対2016年(平成28年)比であり北陸圏広域地方計画推進室にて試算(2023年12月時点の公表データ)

【令和4年度の主な取組み】

【継続的な取組み】

- ◆福井県若狭湾エネルギー研究センターにおける先端的な研究の推進【福井県、(公財)若狭湾エネルギー研究センター】
 - ・県内外の大学や研究機関、企業との共同研究数(R4年度:57件)←(R3年度:60件[-3件])
 - ・原子力・エネルギー、環境関連技術分野での新たな製品化数(R4年度:2件)←(R3年度:2件[±0件])
- ◆地球環境の保全、資源エネルギーの有効利用に関する普及啓蒙活動【石川県】

取組み事例: 地球環境の保全、資源エネルギーの有効利用に関する普及啓蒙活動【石川県】

継続的な取組み

〇いしかわ環境フェア2022の開催
「いしかわ環境フェア」は、環境に関する様々な展示や体験を通じて、県民一人ひとりが楽しみながら人と環境の関わりについて理解を深め、環境にやさしく暮らしについて考え、実践していく契機となることを目的としている。

R4年度は「みんなでストップ温暖化～カーボンニュートラルの実現に向けて、今わたしたちにできること～」をテーマに、「いしかわ近未来の環境技術展」・「いしかわの里山里海展」を同時開催し、地球温暖化から生物多様性まで、幅広い環境問題への取組について体験できるイベントとして開催された。

➢R4年度: 来場者数7,000名



2. 北陸圏広域地方計画 令和4年度の取組み

6. 東アジアに展開する日本海中枢圏域形成PJ (1/2)

北陸圏の有する三大都市圏や環日本海諸国を始めとする東アジアに対する地理的な優位性を活かして、日本海側の産業・物流の中枢拠点機能を強化するため、地域レベルでは日本海沿岸地域有数のものづくり集積を活かした産業の国際競争力の強化、三大都市圏や環日本海諸国レベルでは近接性を活かした東アジア等の諸外国に展開する国際物流機能の強化を推進する。

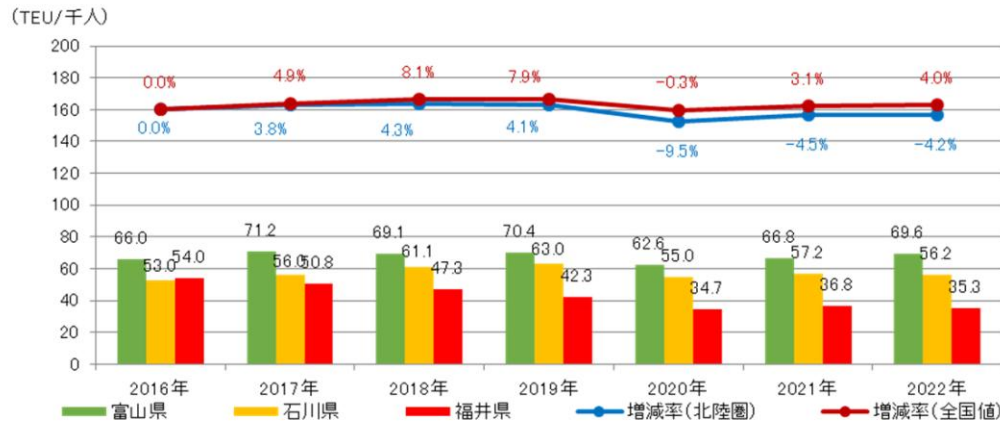
【計画の具体的取組み項目】

- (1) 日本海沿岸地域有数のものづくり集積を活かした産業の国際競争力の強化

【モニタリング指標】

モニタリング指標: モニタリング指標: 外貿コンテナ取扱個数
(人口千人あたり外貿コンテナ取扱個数)

北陸圏の2022年(令和4年)における人口千人あたり外貿コンテナ取扱個数は、2016年(平成28年)と比較すると4.2%減少している一方で、全国は4.0%増加している。



※増減率は対2016年(平成28年)比であり北陸圏広域地方計画推進室にて試算

出典: 国土交通省「港湾統計」総務省「人口推計」

図6-1 北陸圏 外貿コンテナ取扱個数(人口千人あたり外貿コンテナ取扱個数)の推移
(2023年12月時点の公表データ)

【令和4年度の主な取組み】

【継続的な取組み】

- ◆地域デジタル人材育成・確保推進事業【中部経済産業局】
 - ・高機能新素材分野とデジタル人材の育成およびDXをテーマとしたオンラインセミナー(1回)
- ◆「ふくい逸品創造ファンド」による地域貢献産業の創出【(公財)ふくい産業支援センター】
 - ・商品開発支援(R4年度:9件)←(R3年度:7件 [+2件])、販路開拓支援(R4年度:1件)←(R3年度:4件 [-3件])
- ◆北陸高機能新素材クラスター構想【石川県、(公財)石川県産業創出支援機構】
 - ・コンポジットハイウェイコンベンションの開催
- ◆ものづくり中小企業等の人材確保支援【中部経済産業局】

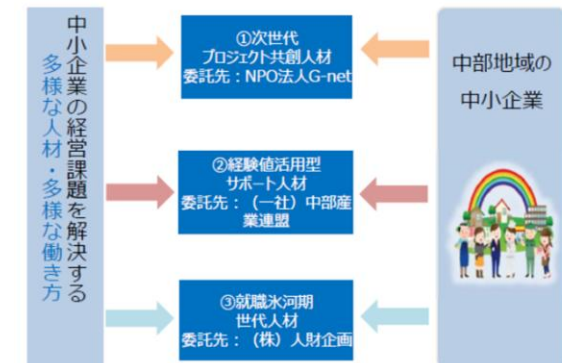
取組み事例: ものづくり中小企業等の人材確保支援
【中部経済産業局】

継続的な取組み

○令和4年度地域中小企業・小規模事業者の人材確保支援等事業

[事業イメージ]

中部経済産業局では、人材確保に悩むものづくり中小企業に対して、多様な人材の確保・活用を促進し、中小企業の課題解決・経営力向上を図る事業を実施している。具体的には、企業が副業・兼業、インターンシップなどの多様な働き方で、若者、シニア、就職氷河期世代などの多様な人材を活用することを支援している。



出典: 令和4年度「中部経済産業局における地域中小企業・小規模事業者の人材確保支援等事業」, 中部経済産業局

2. 北陸圏広域地方計画 令和4年度の取組み

6. 東アジアに展開する日本海中枢圏域形成PJ (2/2)

【計画の具体的取組み項目】

- (2) 三大都市圏との近接性を活かし、環日本海諸国に展開する国際物流機能の強化と企業誘致の一体的な推進

【モニタリング指標】

モニタリング指標: 港湾の取扱貨物量
(人口1人当たり港湾の取扱貨物量)

北陸圏の2022年(令和4年)における人口1人あたり港湾の取扱貨物量は、2016年(平成28年)と比較すると9.4%増加している一方で、全国値は6.3%減少している。



※増減率は対2016年(平成28年)比であり北陸圏広域地方計画推進室にて試算

出典: 国土交通省「港湾統計」総務省「人口推計」

図6-2 北陸圏 港湾の取扱貨物量(人口1人当たり港湾の取扱貨物量)の推移

(2023年12月時点の公表データ)

【令和4年度の主な取組み】

【継続的な取組み】

- ◆インセンティブ等を活用した積極的なポートセールスによる港の利用促進【富山県】
- ◆金沢港(大野地区)国際物流ターミナルの整備【北陸地方整備局、石川県】
- ◆七尾港(大田地区)国際物流ターミナルの整備【北陸地方整備局、石川県】
- ◆敦賀港(鞠山南地区)国際物流ターミナルの整備【北陸地方整備局、福井県】
- ◆港湾活用型企業の誘致及び集積【石川県】
 - ・Web会議等、誘致活動を実施

取組み事例: インセンティブ等を活用した積極的なポートセールスによる港の利用促進【富山県】

継続的な取組み

○伏木富山港利用促進セミナー等の実施

・伏木富山港現地視察会

7月26日、10月31日に、伏木富山港(新湊地区)において、伏木富山港現地視察会を開催した。県内外から、第1回は116名、第2回は82名が参加した。現地視察として、普段は入ることのできない富山新港の国際物流ターミナルを視察し、令和元年夏に岸壁が延伸されたコンテナヤードを見学した。またセミナーでは、船社やフォワーダー、ジェトロによる講演のほか、富山県からは伏木富山港の利用の補助制度等を紹介した。



出典: 令和4年度のポートセールス活動, 富山県

2. 北陸圏広域地方計画 令和4年度の取組み

7. 食料供給力増強・食の北陸ブランド展開PJ (1/2)

北陸圏の豊かな自然環境と水資源が育む、豊かで多様な農林水産資源や食文化を活かして、富山・加賀・福井平野を中心とした高生産性優良農業地域において、担い手の育成と担い手への農地の利用集積・集約化を図るとともに、農業水利施設の適切な保安全管理、計画的かつ効率的な補修、更新等による施設の長寿命化を行うなど、良好な営農条件の確保により、圏域の食料供給力を強化する。また、消費者に信頼される高品質な「北陸ブランド」を構築し、知名度の向上や食関連産業を強化するとともに、国内外に展開する流通・販路網の開拓・拡充の促進、さらには、農水産物の圏域内における地産地消の推進による自給率の向上を図る。

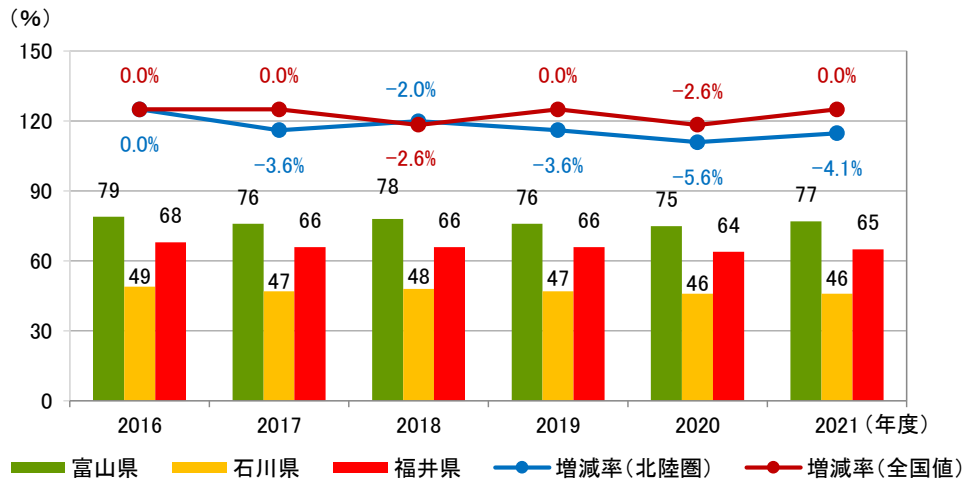
【計画の具体的取組み項目】

(1) 食料供給力の強化

【モニタリング指標】

モニタリング指標：食料自給率(カロリーベース：%)

北陸圏の2021年度(令和3年度)における食料自給率(カロリーベース)は、2016年度(平成28年度)と比較すると4.1%減少している一方で、全国値は同水準(±0.0%)である。



※増減率は対2016年(平成28年)比であり北陸圏広域地方計画推進室にて試算

出典：農林水産省「都道府県別食料自給率の推移(カロリーベース)」(2020年度は概算値)

図7-1 北陸圏 食料自給率(カロリーベース：%)の推移

(2023年12月時点の公表データ)

【令和4年度の主な取組み】

【継続的な取組み】

- ◆担い手への農地集積・集約化を促進するための支援(農地中間管理事業等)【北陸農政局】
- ◆農業水利施設の保安全管理・整備を推進【北陸農政局】
 - ・国営かんがい排水事業(早月川地区、手取川地区、射水平野地区)、国営農地再編整備事業(水橋地区)、国営総合農地防災事業(河北潟周辺地区)の実施
- ◆担い手(認定農業者、集落営農組織)の育成・確保を推進【北陸農政局】
 - ・集落営農組織(R5年2月:1,574組織)←(R4年2月:1,584組織[-10組織])
 - ・認定農業者制度の適切な運用を図るため、Web、メール等を活用して県や市町村等への情報提供を支援。

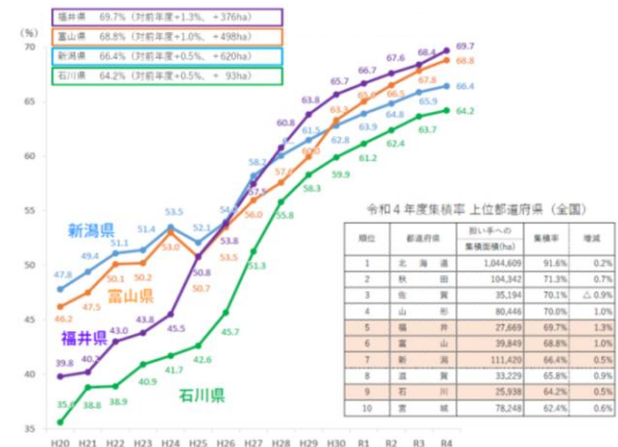
取組み事例：担い手への農地集積・集約化を促進するための支援(農地中間管理事業等)【北陸農政局】

継続的な取組み

農業の高齢化が進む中で、担い手への農地利用の集積・集約化を図っていくことが喫緊の課題となっている。このため、農地の公的な中間的受け皿として、県段階に農地中間管理機構が整備され、農地中間管理事業の活用を柱に担い手への農地利用の集積・集約化を進めている。

＞管内の担い手への農地利用集積率
R4年度末：67.7%
(R3年度末：66.8% [+0.9pt])

【北陸管内(県別)の農地集積の状況】



出典：北陸における農地中間管理機構の実績等について、北陸農政局

2. 北陸圏広域地方計画 令和4年度の取組み

7. 食料供給力増強・食の北陸ブランド展開PJ (2/2)

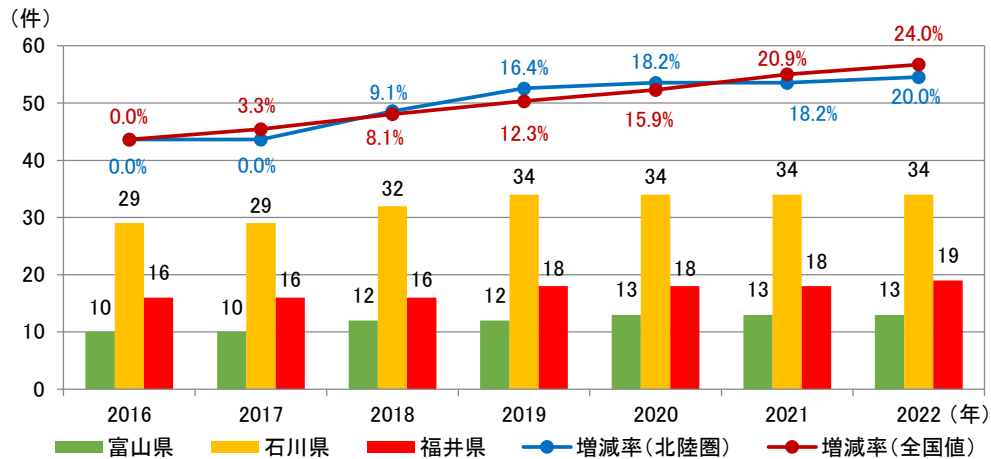
【計画の具体的取組み項目】

(2) 「北陸ブランド」構築と国内外への流通・販路網の開拓・拡充

【モニタリング指標】

モニタリング指標：地域団体商標登録数

北陸圏の2022年(令和4年)における地域団体商標登録数は、2016年(平成28年)と比較すると20.0%増加しており、全国値(24.0%増加)よりも増加している割合はやや低くなっている。



※増減率は対2016年(平成28年)比であり北陸圏広域地方計画推進室にて試算

出典：特許庁「特許庁行政年次報告書」

図7-2 北陸圏 地域団体商標登録数の推移
(2023年12月時点の公表データ)

【令和4年度の主な取組み】

【継続的な取組み】

- ◆ディスカバー農山漁村(むら)の宝の選定【北陸農政局】
 - ・北陸管内選定(R4年度:2件(石川県2件)←(R3年度:1件(石川県1件 [+1件]))

取組み事例：地産地消の推進【北陸農政局】

継続的な取組み

○ディスカバー農山漁村(むら)の宝の選定

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力のある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信するものである。※「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」は、令和3年度まで実施の「地産地消等優良活動表彰」が令和4年度より統合されたもの

＞北陸管内選定 R4年度:2件(石川県2件)
(R3年度:1件(石川県1件[+1件]))

【選定事例】里山総合会社山立会

- ・ビジネスの力で里山を活性化するために、里山における多角経営と、視察研修等による情報発信を実施
- ・菌床なめこ生産を中心に、ジビエ販売、羊の飼育・販売、食堂など多角経営によって経営力を強化



特大サイズの「でけなめこ」が自慢

出典：「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」第9回選定結果の公表について、農林水産省

2. 北陸圏広域地方計画 令和4年度の取組み

8. 強靱な国土づくりに貢献する広域的な防災体制の構築PJ

太平洋側で危惧される首都直下地震や南海トラフ地震等の大規模災害時のバックアップ機能を担う広域的な防災支援体制の構築を推進する。

【令和4年度の主な取組み】

【継続的な取組み】

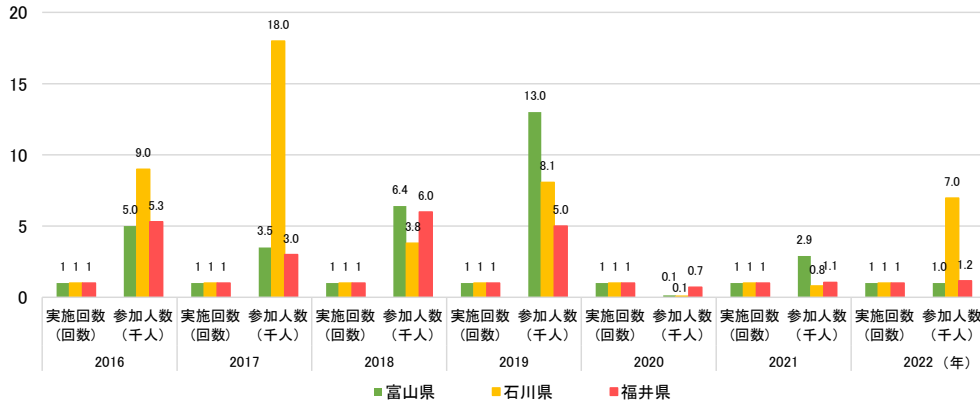
- ◆多機関と連携した防災訓練【富山県、石川県、福井県】
- ◆広域バックアップ専門部会（経済団体、物流団体、港湾関連会社、学識経験者、地方公共団体、国の地方支分部局等）【北陸地方整備局】
 - ・首都直下地震に対応したオンライン代替輸送訓練（R4.12）
 - ・南海トラフ巨大地震に対応したオンライン代替輸送訓練（R4.12）
- ◆中部縦貫自動車道の整備促進【近畿地方整備局、中部地方整備局】

【モニタリング指標】

モニタリング指標：広域的な防災訓練を実施した回数、参加人数の推移

北陸圏における広域的な防災訓練の実績は、下図の通りとなっている。また、2022年（令和4年）の実施状況は下記の通りとなっている。

- ・富山県では、小矢部市にて実施され、約1,000人が参加している。
- ・石川県では、川北町にて実施され、約6,970人が参加している。
- ・福井県では、勝山市にて実施され、約1,150人が参加している。



出典：北陸地方整備局「実施状況把握表」

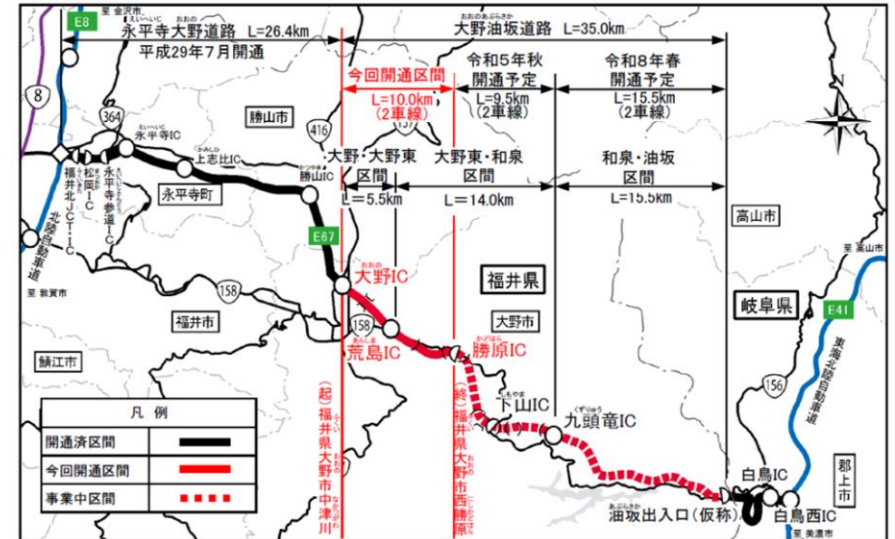
図8-1 北陸圏 広域的な防災訓練を実施した回数、参加人数の推移

(2022年8月末時点のデータ)

取組み事例：中部縦貫自動車道の整備促進 【近畿地方整備局】

継続的な取組み

中部縦貫自動車道は、長野県松本市を起点に飛騨、奥越地方を通過し、福井県に至る約160kmの高規格幹線道路（自動車専用道路）であり、中央自動車道長野線、東海北陸自動車道、北陸自動車道を相互に連絡して広域交通の円滑化を図ることを目的とする。大野油坂道路は、中部縦貫自動車道の福井県域を構成し、高速道路ネットワークの形成、異常気象時の交通の確保、文化・地域の資源を生かした地域の活性化を目的とした自動車専用道路であり、大野油坂道路（延長35.0km）の大野IC～勝原IC間の延長10.0kmが、R5年3月19日に開通している。



[大野IC付近]



[勝原IC付近]



出典：国道158号 中部縦貫自動車道 大野油坂道路令和5年3月19日（日）に開通します（記者発表資料）、近畿地方整備局

2. 北陸圏広域地方計画 令和4年度の取組み

9. 高速交通基盤を活かした北陸観光交流圏形成PJ (1/2)

北陸圏の優れた地域資源及び北陸新幹線の開業等により充実する広域交通ネットワークを最大限活用し、国内外観光客の増加による地域活性化を図るため、北陸の各地域の連携強化による満足度の高い魅力ある観光地域づくり、国内外観光客の効果的な誘客拡大を推進する。

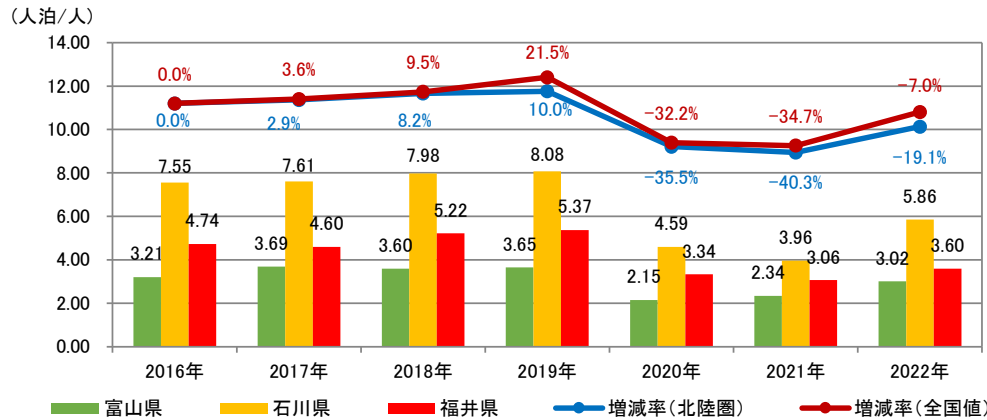
【計画の具体的取組み項目】

(1) 地域の連携強化による満足度の高い魅力ある観光地域づくり

【モニタリング指標】

モニタリング指標: 宿泊者数(人口1人あたり延べ宿泊者数)

北陸圏の2022年(令和4年)における人口1人あたり延べ宿泊者数は、2016年(平成28年)と比較して19.1%減少しているが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響があった前年の2021年(令和3年)の対しては増加している。



※増減率は対2016年(平成28年)比であり北陸圏広域地方計画推進室にて試算

出典: 観光庁「宿泊旅行統計調査」、総務省「人口推計」

図9-1 北陸圏 宿泊者数(人口1人あたり延べ宿泊者数)の推移

(2023年12月時点の公表データ)

【令和4年度の主な取組み】

【継続的な取組み】

- ◆石川県都市公園の整備(金沢城公園)【石川県】
 - ・二の丸御殿の復元整備(調査・設計)、石垣の保全対策
 - ・入園者数(R4年度:231万人)←(R3年度:112万人[+119万人])
- ◆若狭湾サイクリングルートの推進【福井県、敦賀市、小浜市、美浜町、高浜町、あおい町、若桜町、近畿地方整備局、福井県警、福井県サイクリング協会、JR西日本、商工会議所・商工会、観光協会等】
- ◆受入環境整備事業【中部運輸局】
 - ・多言語案内標識の整備を支援(小浜市)

取組み事例: 若狭湾サイクリングルートの推進【福井県、敦賀市、小浜市、美浜町、高浜町、あおい町、若桜町、近畿地方整備局、福井県警、福井県サイクリング協会、JR西日本、商工会議所・商工会、観光協会等】

継続的な取組み

若狭湾サイクリングルート推進協議会は、嶺南地域におけるサイクリングルートの認知度向上および安全な走行環境を整備するとともに、サイクルツーリズムを推進することで、交流人口の増大など地域の活性化を目的としており、ルートのブランド化を目指しナショナルサイクルルート(NCR)指定に向けた事業全体の方向性を決定するために設立されている。

【矢羽根の整備】



【案内看板・注意看板の設置】

設置場所	方向	幅員	高さ	設置位置	自転車専用並走区間
レイアウト					
サイズ	幅15cm 縦45cm	幅15cm 縦45cm	幅45cm 縦150cm	幅20cm 縦80cm	幅20cm 縦80cm

注意喚起看板:

出典: 若狭湾サイクリングルート推進協議会(令和4年度総会)、若狭湾サイクリングルート推進協議会

2. 北陸圏広域地方計画 令和4年度の取組み

9. 高速交通基盤を活かした北陸観光交流圏形成PJ (2/2)

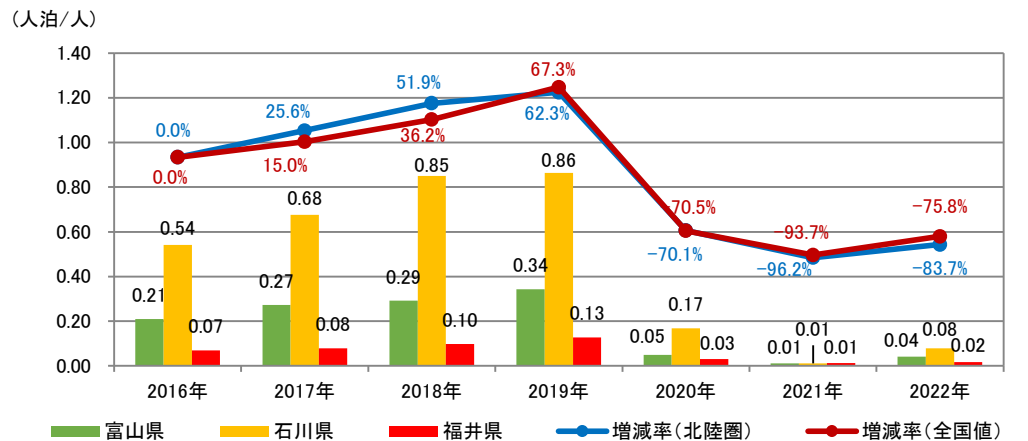
【計画の具体的取組み項目】

(2) 国内外観光客の戦略的な誘客拡大

【モニタリング指標】

モニタリング指標: 外国人宿泊者数
(人口1人あたり外国人延べ宿泊者数)

北陸圏の2022年(令和4年)における人口1人あたり外国人延べ宿泊者数は、2016年(平成28年)と比較して83.7%減少しており、2020年(令和2年)以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、全国値と同様に大幅な減少となっている。



※増減率は対2016年(平成28年)比であり北陸圏広域地方計画推進室にて試算

出典: 観光庁「宿泊旅行統計調査」、総務省「人口推計」

図9-2 北陸圏 外国人宿泊者数(人口1人あたり外国人延べ宿泊者数)の推移

(2023年12月時点の公表データ)

【令和4年度の主な取組み】

【新たな取組み】

- ◆サステナブルな観光コンテンツ強化事業【北陸信越運輸局】
 - ・サステナブルな観光コンテンツ強化事業において、石川にて体験型コンテンツを造成(1事業でコンテンツを3本、モデルツアーを2本造成)
- ◆北陸新幹線の対流促進効果最大化による北陸圏地域活性化プロジェクトの促進【中部運輸局】

【継続的な取組み】

- ◆広域観光ルートの構築【環白山広域観光推進協議会】
 - ・プラチナルート白山周遊キャンペーン(霊峰白山を中心に、白山白川郷ホワイトロードを軸とした周遊ルート)のPR

取組み事例: 北陸新幹線の対流促進効果最大化による北陸圏地域活性化プロジェクトの促進【中部運輸局】

新たな取組み

○観光振興シンポジウムin福井の開催

中部運輸局では、2023年度末の北陸新幹線福井・敦賀開業を新たな観光需要の創出の好機と捉え、観光誘客の促進及び地域活性化の機運を醸成することを目的に、「観光振興シンポジウムin福井」を開催し、福井県内の自治体、観光関係事業者等から102名の参加があった。

基調講演では、観光庁より第4次観光立国推進基本計画案に基づく国としての今後の方針の説明があり、日本政府観光局(JNTO)からは、インバウンド観光の動向や今後インバウンド観光で関心が高い項目等について説明があった。また、じゃらんリサーチセンターからは、観光振興にかかる事例を紹介しつつ、地域で何を行うべきかについて説明があった。パネルディスカッションでは観光誘客の取組と地域振興について、パネリストの間で議論が交わされた。



出典: 「観光振興シンポジウムin福井」開催概要, 中部運輸局資料

【取組み記載内容の解説】

（広域連携プロジェクト名）

- ・ 広域連携プロジェクトの概要説明

【計画の具体的取組み項目】

- ・ 広域連携プロジェクトの具体的な取組み項目名

【モニタリング指標】

モニタリング指標の名称

- ・ 各プロジェクトの進捗状況を検証するため、統計データを用いたモニタリング結果を記載
- ・ なお、モニタリングに用いている指標は、令和5年時点で調査・公表等がされている最新の統計データを使用

【令和3年度の主な取組み】

- ・ 各プロジェクトの具体的な取組み内容として、詳細版に記載されている各機関が令和4年度に実施した取組みの中から抜粋して記載

取組み事例：（具体的な取組み名）【実施機関名】

- ・ 各機関で令和4年度に実施した主な取組みのうち、代表的な取組み事例を紹介